竹中 ナミさん

Profile

愛称、ナミねぇ。社会福祉法人「プロップ・ステーション」理事長。「チャレンジドを納税者に」が合言葉だ。

渚の風

書　野瀬 晴風さん

Profile

滋賀県長浜市出身。
滋賀県庁に入庁、現在は文化振興課美の滋賀・企画係。
滋賀県書道協会師範。

■ユニバーサル社会

21世紀を拓く ～復旧復興を礎(いしずえ)に～

兵庫県知事

井戸敏三(いどとしぞう)さん(69)

六甲山の緑を遠景にして建つ兵庫県庁舎（神戸市中央区）。6月15日夕、井戸敏三知事は、知事応接室に姿を見せた。知事に就任したのは、2001年8月1日。4期目の県政をあずかりながら、21世紀を拓いている。名刺を交換すると、にこやかな顔で「平田篤胤(あつたね)（国学者）の末裔ですか」「どうして渚の風（というネーミング）なんですか」。ユニバーサル社会をテーマにしたインタビューは、いきなり、知事からの逆取材で始まった。

（文　平田篤州(あつくに)）

Text by Atsukuni HIRATA

スペシャルオリンピックスをPRする聖火リレーに参加した井戸敏三知事（2014年10月16日、神戸市中央区の兵庫県庁前）

井戸知事の名刺は、点字だった。いっきょに17年前の霞が関のシーンが蘇った。1998年夏の自民党総裁選。当時、厚生大臣だった小泉純一郎氏（73）が出馬、インタビューで訪れた厚生省（現厚労省）の一室で渡された小泉さんの名刺も点字だった。その時も、「篤胤の末裔か」。「いや、ぜんぜん関係なくて…」

NAGISAとUNIVERSAL

もう1つの知事の質問、「渚の風」の理念やネーミングについて答えた。そのあとのシーンで、はっとした。説明に使った言葉の一群が、知事から、まるでおうむ返しのように出てきたのだ。

「障害のある人もない人も、高齢者も若者も、男であろうと、外国人であろうと、それぞれの個性を活かしながら地域の中で自立することをめざして努力していくことができる社会。それがユニバーサル社会です」。こちらが説明した「渚の風」の理念は次のような内容だった。

＜渚は、山や川や空が海に出会い、まぜこぜになって生まれる。そこの砂浜や湿原では、多くの命が誕生する。地球上で最も豊饒なエリア、それが渚だ。

それは、人間の世界でも同じだ。健常者や障害者も、男性も女性も、大人も子どもも、いろんな人がまぜこぜになった社会こそが、最も豊かな社会…そんな差別や偏見のない「渚」をあちこちに創る「風」になりたい＞

「渚とユニバーサル社会の定義って、ほんまにいっしょやったね」

インタビューから5日後の6月20日夜、大阪・梅田の居酒屋でこうつぶやいたのは、ナミねぇこと竹中ナミさん。社会福祉法人「プロップ・ステーション」（神戸市）の理事長だ。実は井戸知事へのインタビューは、ナミねぇの仲介で実現した。もちろん、インタビューには、ナミねぇも飛び入りで同席していた。

灼熱の対談

「ユニバーサル」は、英語でUniversal。万能の、普遍的な、などの意味がある。1985年に米国の建築家が「いろんな機器や建物は、できるだけ多くの人が利用可能であるようなデザインに」と提唱して以来、「ユニバーサルデザイン」の言葉が広がり、「だれもが～しやすい」「だれもが～できる」の意味合いで、使われるようになった。

「ユニバーサルデザインは、どちらかというとハードの概念。でも、デザインだけじゃない。人間は、ハードやソフトで形成された地域を含む空間で生涯を送っているわけだから、すべての人が共生できるような空間づくりをしていかなければ…。社会そのものがユニバーサルにならないといけません」

21世紀の扉が開いた2001年。知事に就任してすぐ、井戸さんは「ユニバーサル社会の実現」を県政の旗印の1つに掲げた。

ナミねぇは、こう話す。

「42歳の重度脳障害の娘を授かったオカンとして、『娘を残して安心して死ねる日本社会ってどんなんやろ』。そう考えた時、社会を支える意欲のある人のチカラを、（障害者も健常者も）漏れなく生かし切ることのできる『ユニバーサル社会』の実現こそが、持続可能な社会を創るんや、と思い至りました」

知事は言った。

「目から鱗が落ちました。ナミねぇから『チャレンジド』の話を聴いた時は…。障害者をチャレンジドと呼び、保護・支援の対象ではなく、タックスペイヤー（納税者）になりうる可能性を持った人々だ、と言い切る。そして、それを実行している。びっくりしました。なんでもできるんです、ナミねぇは…」

穏やかなはずの「創刊1年インタビュー」が、しだいにナミねぇとの「灼熱の対談」になってきた。

27面（裏面）に続く

あとがき

季刊フリーペーパー、渚の風は、福祉施設で働く人々を元気づけよう、福祉現場につきまとうマイナスイメージを吹き飛ばそう、との目的で昨年7月、創刊しました。みなさまのご支援のもと今回を含め5回発行することができ、その間、さまざまな方面から応援や感謝の言葉をいただきました。深く御礼申し上げます。今号で休刊となりますが、バックナンバーは引き続き、インターネットの「産経新聞制作」ホームページから閲覧できます。QRコード（右）からジャンプすればスマートフォンでも読むことができます（一部の機種では不可の場合もあります）。　（渚の風編集委員会）

フリーペーパー
渚の風
問い合せ
郵送のお申し込み 06・6633・9905
大阪市浪速区湊町2-1-57
㈱産経新聞制作大阪センター
渚の風事務局まで
発行　㈱産経新聞制作　東京都千代田区大手町1の7の2
編集　渚の風編集委員会　写真協力　産経新聞大阪本社写真報道局
編集協力　社会福祉法人産経新聞厚生文化事業団